宇都宮市立横川中央小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○宿題に関する項目で「家で学校の宿題をしている」の肯定的回答割合は97.5%で、県を2.4ポイント上回り、家庭で取り組んでいることが分かる。また、「学校の宿題は、自分のためになっている」の肯定的回答の割合は95.0%であった。今後も継続して行えるよう、宿題の内容を検討しながら取り組ませたい。

○授業に関する項目で「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」の肯定的回答割合は96.3%で、県を2.2ポイント上回った。今後も、めあてに向かって分かる授業を行っていく。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的回答割合は78.8%で、県をわずかに上回っており、「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」の肯定的回答割合は85.1%で、こちらも県を上回っており、割合が高い。互いを尊重し、互いの意見を取り入れることは、自分の意見と比較して考えるために大切なことである。今後も授業における学び合いを高めていきたい。

○「自分には、よいところがあると思う」の肯定的回答割合は87.5%、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の肯定的回答割合は96.3%と、どちらも県を5ポイント程度上回った。「自分は家族の大切な一員だと思う」の肯定的回答の割合は98.8%と高い。安心して過ごせる温かい家庭による支えを基盤として、自己肯定感を高められる環境にある児童が多いことが分かる。

●「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の肯定的回答割合は74.3%で、県の割合を7.5ポイント下回った。課題解決に向けて、一人の力に限らず、友達と共に解決していけるような授業を仕組み、解決できたときの達成感や喜びを味わわせたい。

●平日における学習時間に関する項目で、「学校の授業時間以外に、普段一日あたりどれくらいの時間勉強しますか」で、1時間以下と答えた割合は66.3%である。宿題をする習慣はほとんどの児童で定着が図られているが、宿題以外の学習は取り組んでいない児童が一定数いる。今後は自主学習の内容にも触れながら、自分にとって必要な学習へと取り組んでいけるよう支援をしていきたい。

●学習についての項目で「国語の授業の内容はよく分かりますか」の肯定的回答割合は91.3%、「算数の授業の内容はよく分かりますか」の肯定的回答割合は87.6%と高いが、「国語の学習は好きですか」の肯定的回答割合は67.5%、「算数の学習は好きですか」の肯定的回答割合は62.6%と低い。どちらの教科も、25ポイント程度の開きがある。学習内容を理解できていれば、「好き」に繋がるのではないかと考えるが、このポイント差に目を向け、児童が主体的・意欲的に学習に取り組めるような授業を行っていきたい。

宇都宮市立横川中央小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
各教科における基礎・基本の確実な定着	・話の聞き方や発表の仕方、ノートの手取り方など基本的な学習態度や学習機能を身に付けさせる指導。 ・一人一台端末の計画的・積極的・効果的な活用と工夫・改善。 ・朝の学習における漢字・言葉・計算学習の実施。	国語は5年生で言葉の特徴や使い方に関する事項で県の正答率を上回ったが、そのほかの領域ですべて下回った。算数では、思考・判断・表現の観点と5年生のデータの活用で上回ったがそのほかの領域ですべて下回った。理科では、学年によって上回る領域が異なっていたが、知識・技能の観点で4年、5年ともに上回った。
自分の思いや考えを表現できるような学習指導の工夫と改善	・学校課題「『見方・考え方』を働かせ、学び合う児童の育成」のための授業改善。 ・多様な考えに触れ、互いの良さを生かしながら協働して課題解決に取り組めるような学び合いの場の工夫。	「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」と答えた児童の割合は、5年生は県の肯定割合を上回っていたが、4年生では下回った。しかし「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」の肯定割合は4年生が上回っていた。
豊かな心を育む表現力の向上を目指す読書指導の充実	・全校一斉読書の実施。(月、金曜日) ・チャレンジブックの実施。 ・読書週間の実施。(10月) ・読み聞かせボランティアを活用した読み聞かせの実施。(月1回通年)	「授業時間以外にどれくらい読書をしますか」の問いに対して、4年生では「全くしない」、5年生では「10分以上30分以内」と答えた児童の割合が最も高かった。1か月の読書量では、4年生では11冊以上、5年生では1.2冊と答えた児童の割合が最も高かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の「書くこと」の5年生の平均正答率は40.5%で、県よりも7.7ポイント、4年生の平均正答率は32.1%で県よりも20.7ポイントも下回った。「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」の質問に対して、「はい」と答えた児童の割合は、4年も5年も県の割合を上回っている。	各教科・領域の学習の中で、自分の意見や考えをもち、相手に伝える機会を計画的に設ける。	・書くことへの抵抗感を軽減するための取組として、自分の考えを言語化する活動を取り入れる。 ・発表や説明をしたりする学習では、理由や根拠を明確にする。 ・友達の発表を聞くときには、自分の考えとの違いを比べたり、気付きを大切にしたりする。 ・条件を付けて文章に表す機会を積極的に取り入れる。